

## 第2学年 「図画工作科」学習指導案

授業者 小沼 律子

2月22日(木) 2階アトリエ 9:00~9:40

### 1 題材名 「見える」と「見えない」～「粘土を切る」という行為～

#### 2 題材(単元・活動について)

今年度、2年生のこどもたちと図工の時間を過ごしてきた中で印象的だったのは、こどもが「目を閉じて」表現しようとしたり、身体全体で、とにかくおもしろがったりする姿である。例えば、風を描く授業では、こどもは目を閉じて、目に見えない風を見ようとしていた(要項p42.43参照)。また、2年前に出会ったこどもたちは、必ず対象を触って感じ、その対象を分かろうとしていた。このように、こどもたちにとって「ちゃんと見ようとする」と「感じる」ことは同じことなのである。「感じる」ということは、物事を写真で撮影するような平面的な見方ではなく、立体的に対象をとらえようとする、「触るような見方」であった。この「感じる」事は表現の原点であると考え、再度この「感じる」ことや「見る」ということについてみつめ直したい。

本時は、上記のようなこどもの見方に注目して題材設定をおこなった。本時では、視覚を遮断して粘土に触れ、粘土を「切る」という行為に着目する。視覚を遮断するというのは、「目の見えない人」に近づいたつもりで見ようとするのではない。それは全く違う次元の「見え」であり、本時のねらいとは違うものである。あくまでも、こどもたちが視覚を遮断し、自分の中にある対象のイメージを想起しながら、周囲の多くの情報に捕らわれずに、「感じる」ことをねらいとしている。その為、手から伝わる粘土の抵抗感や、肌で伝わる粘土の周りの空気感、切る為の道具と身体が一体になる感じ等を味わうことを大切にする。そうして感じることにより、当たり前のように見て触ってきた粘土を改めて探究し、子どもたちが自分自身の「見る」についても問い直したい。尚、本時の授業は、23日(金)の「感じる」というわかり方と連続している。「土」を感じてきた履歴を生かし、23日(金)は、本時で扱った粘土で表現する予定である。

#### 3 学習活動計画(8時間目/全15時間)

- |   |         |
|---|---------|
| (1) 自分たちの「遊び」をふりかえる、GT(ゲストティーチャー)との対話。  | …1時間    |
| 「遊び」を他者に紹介する。                           | …1時間    |
| (2) GTからみた、自分たちの「遊び」について聴く。             | …1時間    |
| (3) 自分たちの「遊び」について対話。                    | …1時間    |
| (4) GTのお話から、環境、空間やデザインすることについて考えを深める。   | …1時間    |
| (5) グループにわかれて対話。自分たちの環境をデザインする。         | …1時間    |
| (6) 粘土に触る…見えている情報(粘土の周辺の情報も)とともに、粘土を見る。 | …1時間    |
| (7) 粘土を切る…視覚を遮断し、粘土を触って「見る」。            | *本時…1時間 |
| (8) 粘土で遊び空間を考える(環境デザインの活動に接続)。          | …1~4時間  |
| (9) 考えた遊び空間で、自分の分身を遊ばせる。                | …1時間    |
| (10) 公共空間について考える。                       | …1~2時間  |

#### 4 本時の学習について

##### (1) 本時のねらい

粘土の抵抗感や、道具と身体が一体になること等を味わい、粘土の善さを探究する。

##### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「土の造形」をふりかえる。</li> <li>・視覚を遮断して、粘土に触る。</li> <li>・感じたことを伝え合い、新たな視点を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚を遮断することは、「見えない人の気持ちになって考える」事とは違うということに注意する。</li> </ul>